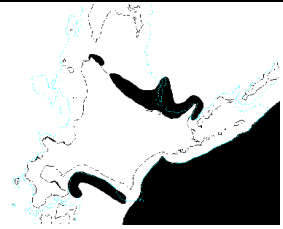


# 39. サンマ

主な漁業と漁期

棒受網：周年

流し網：7～9月



## 太平洋～オホーツク海海域

### 生態

#### ◆分布・回遊

日本海、オホーツク海、北太平洋の亜熱帯～亜寒帯水域にかけて分布する表層性魚類で、季節的な南北回遊を行います。分布域の表面水温は7～25℃で、10～15℃での分布が多くなっています。オホーツク海へは、主に7月下旬から8月下旬に太平洋から千島列島中南部海域を通過して来遊すると考えられています。

#### ◆産卵期・産卵場

◎産卵期はほぼ周年ですが、7～8月の産卵は少ないといわれています。

◎産卵場は、秋季（9～12月）と春季（4～6月）には三陸常磐沖～伊豆諸島付近、冬季（1～3月）には伊豆半島～熊野灘沖付近に形成されます。

#### ◆成長・成熟

◎成長

ふ化後6～7か月で体長20cmに達し、漁期中に漁獲される大型魚（体長29cm以上）の年齢は1歳以上とされています。中型魚（体長24～29cm未満）、およびそれより小型のものは0歳であると推測されています。寿命は約2年と考えられています。

◎成熟年齢・体長

体長25cmから成熟する個体がみられ、0歳魚の一部と、1歳魚が産卵します。

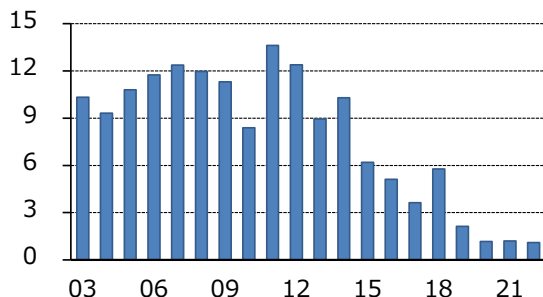
### 資源評価

[評価年] 1月～12月

[来遊量の指標] 来遊資源量指数

2022年度の漁獲量は約1.1万トンで、1965年以降最低であった前年より減少しました。北海道に水揚げしたさんま棒受網漁船の標準化CPUEも過去最低値を示しており、2022年度の北海道への来遊水準は低水準と判断されました。資源の減少傾向や、北海道周辺への来遊割合の低下傾向からの好転が見通せないことから、翌年にかけての来遊動向は減少と判断されました。

漁獲量（万トン）



2022年度  
の水準



低水準

2023年度  
の動向



減少

※都道府県も参加した国の資源評価結果を参考に本道周辺海域の資源状況を評価しています

### 資源の維持・増大のために！

資源管理の現状(主なもの)

○TAC(漁獲可能量)管理

2023年度漁期TACは、全国で118,131トン、北海道知事管理分は10,713トンです。(2023年11月現在)

※太平洋海域における知事管理のさんま漁業は10トン未満船です。

○北太平洋漁業資源保存条約(2015年発効)

2023年の第7回委員会会合において、2023・24年漁期における条約水域(公海域)での漁獲枠は、15万トンで合意されました。



☆広域回遊魚種のため、資源管理には国・他県との連携した取り組みを継続することが必要です。

問い合わせ先

北海道水産林務部水産局漁業管理課資源管理係  
北海道立総合研究機構 釧路水産試験場調査研究部

電話 011-204-5477

電話 0154-23-6222